

6月定例活動「トンボ池周辺グレードアップ作戦」

大館 学

今年は昨年に比べ雨の降る日が多く、本当にうとうしい梅雨の毎日が続いていましたが、そんな中、6月の定例活動は「トンボ池周辺グレードアップ作戦」と題して草ぼうぼうのトンボ池周辺をきれいにする取り組みを行いました。昨夜からの雨はあがったものの、梅雨空の下、三々五々集いの広場に集まった10時ごろには、急に降り出した雨でやる気が急速に減退。一方で、雨合羽を着込んでやる気満々で参加するものあり、結局「じゃあ やろうか。」となり、トンボ池に向かう。(参加者：村田、中島、野浪、伊藤、小池、阪井兄妹、大館、伊藤晶)

まずは草刈からということで、大鎌のこぎり鎌などを手にトンボ池のまわりから草刈にかかる。よくしたもので、作業にかかると同時に雨は上がったものの、湿度100%の劣悪な環境の中、黙々と作業をする。いつものことだが、大勢で作業を行うと仕事のはかどりはすこぶるいい。そのうち小池さんが操作する草刈機のエンジン音が響くようになり池の周りや池の中に生えた草もきれいに刈り払われた。



さて、今回のトンボ池のクリーンアップに合わせてどうしても確認しておきたいことがあった。それは、「トンボ池にトンボのヤゴはいるのか？」である。今回、野浪さんが池のガマの葉にヤンマの抜け殻を見つけたし、トンボは飛んできているのだから、いるに決まっているのだが、好奇心の旺盛な中高年としてはやはり自分の目で確認しなけりゃ意味がない。そこで、小屋からタモと虫かごを出してきて、トンボ池の中をタモですくってみたら……。いました、いました。それも一回すくうたびに2~3匹のヤゴが。それもアカトンボ型、シオカラトンボ型、ヤンマ型といろんな種類のヤゴが。ここでヤゴの同定方法について。ヤンマ型は4cmくらい大型のヤゴ、アカトンボ型は上から見ると頭部が逆三角形をしていて、シオカラトンボ型は長方形であることから容易に同定できます。



荒池での活動に参加されていて今回オアシスの森の活動を見学に来ていた阪井さんからジューズの差し入れを頂き、ここで昼ごはん。午後からは引き続き池の清掃と、ヨシヅ張りの作業。トンボ池は水深が浅く、夏になると水がお湯のようになり、また蒸発も激しいのでヨシヅを張ってこれを緩和しようという作戦です。池の両端に杭を打ち青竹で桁を渡しヨシヅを張りました。最後に池畔のクルミの木陰に杉の丸太でベンチを作り本日の作業は終わり。新装オープンとなったニュートンボ池に早速シオカラトンボのペアリングカップルが飛んできて産卵をしていました。めでたし、めでたし。



トンボ池で見つかったヤゴ(左)と抜け殻(上)



過酷な気象条件にもめげず、草刈りなどに汗を流す参加者

作業終了後、言いしれぬ達成感に浸る……。

皆さん、本当にお疲れさまでした！

